

「しらかし」は豊栄図書館正面にあるシンボルツリーの樹種です。

新年度のごあいさつ

豊栄図書館長 木村 隆行

新しい年度がスタートしました。馬齢を重ねると本当に1年が早く感じられます。

平成28年度、北区の図書館・図書室では入館者が年間延べ約26万人、本を借りていただいた方が約8万人と、たいへん多くの皆様からご利用いただき心よりお礼申し上げます。

< まだまだ利用価値が知られていない図書館 >

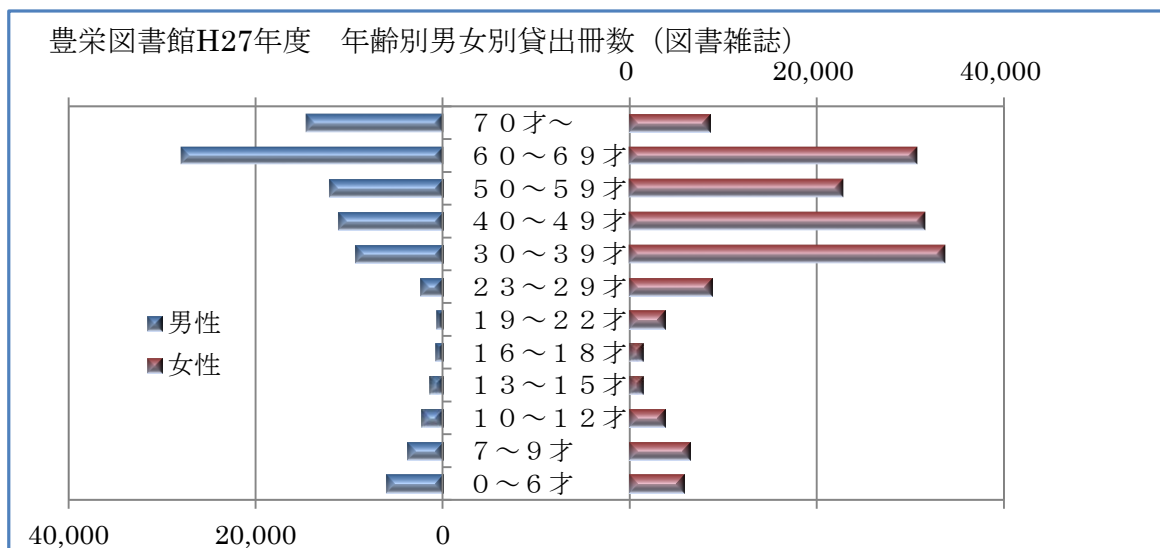
さて、先日、図書館から借りた本を家人に「面白いから読んでみたら？」と薦めた時のこと。家人は「新潟市立山の下図書館」の所蔵シールを見て「いつ、山の下図書館に行って来たの？」と聞きました。PC・スマホ・携帯で、市立図書館ホームページから資料検索・予約ができることや、予約本の受取り館を指定できることを家人は知らないのです。

< 読みたい内容の本を探すことで情報活用能力を養う >

読みたい内容の本を探すには、キーワードをどのように入力したらいいのか？ その方法を習得することも、情報活用能力の一つと言えらると思います。本を探すことで、情報活用能力も養われるでしょう。

< 本を借りて読む世代・本を借りて読まない世代 >

豊栄図書館の年齢別の貸出数は下のグラフのとおりです。



30代から70代の方々が大きなユーザーです。中学生から20代は、図書館での貸出は多くありません。果たしてこのスマホ世代が年齢を重ねたとき、現在の30代から70代のような図書館ユーザーになってくれるでしょうか。

今年度も是非、これまで以上に図書館・図書室を有効活用いただきたいと思います。また、どのように工夫・改善したら、さらに使い勝手のいい図書館になるのか、ご指導・お知恵をいただきたいと思います。



澤口 たまみさん講演会



小さな生きものの世界へようこそ ～絵本で伝える 虫の魅力～



<澤口 たまみさん プロフィール> 1960年岩手県盛岡市生まれ。絵本作家。虫の代弁者として、虫や自然にまつわる文章を書くとともに、保育園や幼稚園の子どもたちに、野原で過ごす楽しさを伝えている。絵本の著作に『わたしのあかちゃん』（津田真帆／絵、福音館書店）、『いもむしってね…』（あずみ虫／絵、福音館書店）ほか多数。

去る3月4日（土）、絵本作家の澤口たまみさんをお迎えし、講演会を開催しました。20代から70代まで、幅広い年齢層の皆さまにお集まりいただきました。

澤口さんに「自然を好きになることは人生を豊かにする」と教えてくれたのは、獣医である澤口さんのお父さんと、おばあさんだったそうです。おばあさんは、澤口さんを毎日散歩に連れ出しました。お父さんが最初にご覧になった絵本は『ゆかいなかえる』。自然そのままのかえるの姿が描かれています。『りすのパナシ』もとても好きな本だったそうです。3冊目は大人向けの動物図鑑で、お父さんの手書きのルビが振られていました。

お父さんは、農家から子うさぎやにわとりをもらってきては、家で飼わせてくれたそうです。幼いころからの生き物との関わりが、澤口先生の絵本製作の源であることがうかがわれるお話でした。



「虫嫌いにさせるのは人生の損失です。大人は虫に悲鳴をあげないようにしましょう！」
「ブックスタート（赤ちゃんとともに絵本を楽しむ活動）と同じ時期に、散歩（自然観察）を始めることができます。1歳児に『やわらかいよ』と言って、虫を手の平に乗せてやれば、つぶしません。虫の背中を指で上手になでますよ。」

「子どもたちが虫を見つけたとき『これなに？』と聞くのは、名前を求めているわけではありません。0歳から5歳の子どもに、虫の名前を伝えることは何の意味もない。名前がわからなくても『なんだろうね～』と子どもと一緒に眺められれば、それは才能です。」

「物語絵本と科学絵本は、子どもの本の体験の両輪です。そして、科学絵本は自然体験と両輪なのです。科学絵本を読みながら、外を散歩しながら楽しむ。こうして子どもの心が豊かになっていくと思います。」等々、身振り手振りを交えながら、自然と科学絵本の楽しみ方について、お話しくださいました。

参加者からの質問にも丁寧にお答えいただき、澤口さんのお人柄がにじみ出た温かな講演会となりました。ご来場いただきました皆さま、ありがとうございました。



一般



『それっ！日本語で言えばいいのに！！』

カタカナ語研究会議／監修，秀和システム

本書のタイトルと同じ気持ちを持ったことはありませんか？日常の中にあふれるカタカナ語に“その意味は？”と思ったとき、ぜひこの1冊を手にお取りください。よく使われているカタカナ語の、そもそもの意味とそこから派生した使われ方だけでなく、誤用場面の再現、日本語の言い換え例や、英語表記も載っています。ひとつのコトバに対し、辞書の要素を含んだ解説で、情報量が多いのが特長。カタカナ語の意味を深く正確に理解し、使いこなすために最適です。(田辺)

絵本

『ちいさな ヒッポ』



マーシャ=ブラウン／さく
うちだ りさこ／やく，偕成社

川辺のパピルスの茂みで生まれたかばのヒッポは、お母さんのそばにいれば怖いものなしでした。かばの言葉を覚え始めたある日のこと。みんなが泥の中で眠っている間に、離れて遊んでいると、そっとワニが近づいてきて……。

子どもを守る頼もしい母親と、母親を信頼している子どもとの、親子関係がみごとに描かれた迫力ある版画絵本。(中山)

YA

『Q→A』

草野たき／作 講談社



5人の中学生のもとに、学校や塾、教材など様々なシチュエーションでアンケートが配られ、それに彼らが回答していきます。質問は例えば「Q. 現在仲のいい友達はいますか？」と一般的なものですが、回答を考えるうち彼らの日々の不安や悩み、将来への希望などが思い起こされていきます。

彼らの回答する姿を見て今の気持ちを重ねたり、懐かしいと感じたり、共感できる1冊です。(山本)

児童

『兵士になったクマ ヴォイテク』

ビビ・デュモン・タック／著
フィリップ・ホプマン／絵
長野 徹／訳，汐文社



私たちが暮らす現代の世界には、大きささまざまな、いろいろな姿の熊のキャラクターが活躍していて、目を楽しませてくれます。

70年以上前の第2次世界大戦中に、戦場で兵士を助け、マスコットとして一躍有名になった本物の熊がいた！という話を皆さんは信じられますか？兵士と野生の熊がどのように出会い、心を通わせていったのかがこの本には描かれています。「熊」も人間も平和に過ごせる世界であってほしいものです。(島倉)

赤ちゃんタイムをはじめました！

★ おはなし会を開催します

時間：午前11時～11時20分

対象：0～2歳児とその保護者

会場：北地区公民館 和室（2階）

お子さんとごいっしょに
絵本コーナーで
くつろいでおすごしください。

新しく入った本

雑誌「nina's」が入りました！

子どものいる生活を楽しむための、ファッション・ビューティ・育児情報が満載です。おしゃれなママタレントのライフスタイル紹介や読者スナップも。書架にないときはぜひご予約ください。



松浜図書館の棚から

～常設テーマコーナーの紹介～

⑥ パソコン関連本のコーナー

館内のちょうど中央あたりに位置する棚です。

ソフトの使い方やウイルス対策、インターネット関係など、パソコンにまつわる様々な本を揃えています。スマートフォンやアプリの本もあります。

パソコンを使うときのちょっとした不便を解消したい、より快適な環境をつくりたい、などいろいろなご要望にお応えする棚づくりに努めています。



編集・発行：新潟市立豊栄図書館

〒950-3323 新潟市北区東栄町 1-1-35 TEL:025-387-1123 FAX:025-384-6600

新潟市立松浜図書館

〒950-3126 新潟市北区松浜 1-7-1 TEL:025-387-1771 FAX:025-259-7331

発行日：2017年4月

ホームページ：<http://www.niigatacitylib.jp/>